

会 議 録

会 議 の 名 称	令和7年度第5回枚方市廃棄物減量等推進審議会	
開 催 日 時	令和8年2月19日（木）	10時00分から 11時00分まで
開 催 場 所	枚方市総合文化芸術センター別館 6階 大会議室	
出 席 者	橋本 征二 会長 早川 孝 副会長 大塚 正矩 副会長 石川 聡子 委員 田村 有香 委員 稲森 郁子 委員 白石 眞理子 委員 廣永 秀人 委員 藤波 智子 委員 田 元浩 委員 野々上 智規 委員 前田 達也 委員 山縣 純司 委員	
欠 席 者	大下 和徹 委員 森 佳悦 委員	
案 件 名	(1)「第2次枚方市一般廃棄物処理基本計画(素案)」についてのパブリックコメントの実施結果について (2) 令和8年度 枚方市一般廃棄物処理実施計画（案）について (3)その他	
提出された資料等の名	・次第 ・資料1 「第2次枚方市一般廃棄物処理基本計画（素案）」についてのパブリックコメント（結果公表） ・資料2 令和8年度 枚方市一般廃棄物処理実施計画（案） ・参考資料 第2次枚方市一般廃棄物処理基本計画（案）	
決 定 事 項	・「第2次枚方市一般廃棄物処理基本計画（素案）」についてのパブリックコメント（結果公表）を確認した。 ・令和8年度 枚方市一般廃棄物処理実施計画（案）を確認した。	
会議の公開、非公開の別及び非公開の理由	公開	
会議録の公表、非公表の別及び非公表の理由	公表	

傍 聴 者 の 数	0人
所 管 部 署 (事 務 局)	環境部 循環型社会推進課
審 議 内 容	
橋 本 会 長	<p>それでは、定刻になりましたので、ただいまから令和7年度第5回枚方市廃棄物減量等推進審議会を開催させていただきます。本日はお忙しいところ、審議会にご出席いただき誠にありがとうございます。</p> <p>まず、事務局から委員の出席状況の報告をお願いします。</p>
事 務 局	<p>本日の委員の出席状況は、15名中13名の出席をいただいておりますので、本審議会が成立していることをご報告させていただきます。</p>
橋 本 会 長	<p>ありがとうございます。続きまして、本日の審議会の傍聴希望者の確認をいたします。傍聴希望者はおられますか。</p>
事 務 局	<p>傍聴希望者はおられません。</p>
橋 本 会 長	<p>わかりました。</p> <p>次に、議事に入ります前に、資料の確認をお願いします。</p>
事 務 局	<p>資料の確認をさせていただきます。</p> <p>まず、次第</p> <p>資料1 「第2次枚方市一般廃棄物処理基本計画(素案)」についてのパブリックコメント(結果公表)</p> <p>資料2 令和8年度枚方市一般廃棄物処理実施計画(案)</p> <p>参考資料 第2次枚方市一般廃棄物処理基本計画(案)</p> <p>以上、過不足はございませんでしょうか。</p> <p>事務局からは以上です。</p>
橋 本 会 長	<p>それでは、早速、案件に入らせていただきます。</p>
案件1 「第2次枚方市一般廃棄物処理基本計画(素案)」についてのパブリックコメントの実施結果について	
橋 本 会 長	<p>案件1は、「第2次枚方市一般廃棄物処理基本計画(素案)」についてのパブリックコメントの実施結果についてです。</p> <p>本件は昨年10月の本審議会からの答申を踏まえ、市で作成した計画素案に対して、パブリックコメントを12月に実施したものです。その実施結果につ</p>

事務局	<p>いて報告をお願いします。</p> <p>それでは、事務局よりご説明させていただきます。</p> <p>(資料1に基づき説明)</p>
橋本会長	<p>ただいま事務局から説明がありましたパブリックコメントの実施結果について、何かご意見・ご質問があればお聞きしたいと思います。いかがでしょうか。</p>
田村委員	<p>パブリックコメントを寄せてくださる方々は、市民の中でも環境に対して非常に関心や意識が高い方々であると推察いたします。</p> <p>そういった方々のご意見の中に、「プラスチックの再生利用状況が不明確である」という点や、「食品ロス問題についてさらなる周知広報を行ってほしい」という声があるということは、実際は市の方でも情報発信はしていると思いますが、その情報が探しても見つけにくかったり、届いていない現状があるのではないのでしょうか。</p> <p>そうした現状を踏まえ、今回の事務局の回答を拝見しますと、従来の方針とあまり変わらないという印象を受けました。もし私が意見を提出した立場であれば、物足りなさを感じるかもしれません。</p> <p>今回の素案自体は網羅的に記述されているため、内容を変更する必要はないと考えますが、今後の取り組みに関しては、より幅広い層に情報が届くかつ見つけやすい工夫を検討していただければと思います。</p>
事務局	<p>委員ご指摘の通り、市が発信する情報をいかに市民や事業者の皆様へ届けていくかという点は非常に重要な課題であり、我々としても今後の注力すべき点であると認識しております。</p> <p>そのため、今後はこの新計画に基づき、例えば、分別された資源物がどのようにリサイクルされ、どのような製品に生まれ変わるのかといったプロセスについて、より具体的かつ分かりやすく情報発信を行ってまいりたいと考えております。</p> <p>また、情報発信の手法につきましても、市民の皆様のライフスタイルは多様化しております。子育て世帯や共働き世帯、学生、あるいはシニア世代など、それぞれの生活様式に応じた媒体や手法を工夫し、より伝わりやすい広報を展開していく考えです。</p>
橋本会長	<p>情報が溢れている昨今、難しい面もあるかと思いますが、よろしく願いいたします。</p>

稲森委員	ご意見をいただいた方の世代は分かりますでしょうか。
事務局	世代については、わからないものとなっています。
稲森委員	<p>例えば、インターネットを日常的に利用する世代なのか、あるいは広報紙を重視する世代なのかによって、アプローチの手法も変わってくると思います。</p> <p>そうした各世代に情報が満遍なく行き渡るよう、様々なツールを活用し、事例を可視化して伝えていただきたい。文章だけでなく写真や動画などを用いて具体的に発信することで、市民の皆様の実感も深まってくるのではないかと考えます。</p>
事務局	<p>様々なツールを活用し、今後も情報発信に努めてまいりたいと考えており、例えば、若者世代に対しては SNS の利用率が高いことから、ショート動画による発信などが効果的であると思われまます。</p> <p>また、比較的時間に余裕のある世代の方々には、4R の学びの場の提供なども含め、それぞれのライフスタイルに合わせた適切な情報発信を展開してまいります。</p>
稲森委員	<p>パブリックコメントの内容からは少し離れますが、ごみの収集をしてきている職員と市民とは、接する機会は多くありません。</p> <p>例えば、収集業務にあたっている方々の人となり伝える機会として、職員の動画を発信するなどして、職員のことをより身近に感じることで、分別への協力を促進できないでしょうか。</p> <p>今までの「行政と市民」という枠組みから一歩踏み出した、新しい発想が必要になってくると考えております。</p> <p>YouTube や SNS を拝見しますと、消防署の方々が日々の訓練風景を発信していたり、警察官の方が親しみやすい人柄を伝えたりするような事例が見受けられます。</p>
事務局	以前、市長を筆頭に職員がダンスを披露する動画を制作したことがございました。委員のご意見を今後の情報発信に活かしてまいります。
橋本会長	既に作成されたショート動画などはあるのでしょうか。
事務局	環境部として単独で作成した実績は、現在のところございません。
橋本会長	ぜひ、現場の職員が登場するようなショート動画を制作していただきたいと思っております。

野々上委員	<p>2点質問です。</p> <p>1点目は、今回のパブリックコメントは4名から5件のご意見とのことですが、枚方市では年間を通じて他にも多くの案件を募集されているかと思えます。本件の結果は、全体的にみると関心が高い方なのか、もしくはそうでないのか、その見解を伺いたいです。</p> <p>2点目は、パブリックコメントの公表方法についてです。先ほど検索したところ、現在募集中の案件入力画面にはすぐ辿り着けましたが、過去の結果や回答が掲載されている画面をすぐに見つけることができませんでした。こうした結果については現在どのように公開されているのか、併せてお聞かせください。</p>
事務局	<p>パブリックコメントにつきましては、年間を通じて様々な行政計画において実施しておりますが、実施時期や計画の内容によって意見の件数は異なっております。</p> <p>今回の計画案については12月に実施し、市ホームページや広報ひらかた、SNS、さらにはごみ分別アプリ「さんあ〜る」等を用いて周知を図りました。参考までに、募集期間中の市ホームページの閲覧数は389件ございました。400件近い閲覧があったことから、一定数の方々には内容に関心を持って目を通していただけただけのものと考えております。</p> <p>また、パブリックコメントの結果公表につきましては、本日お示しした資料に基づき、2月下旬から市ホームページ上で行う予定です。</p>
橋本会長	<p>その他よろしいでしょうか。</p> <p>そうしましたら、次の案件に入らせていただきます。</p>
案件2 令和8年度 枚方市一般廃棄物処理実施計画（案）について	
橋本会長	<p>続いて、案件2「令和8年度枚方市一般廃棄物処理実施計画（案）」についてです。市で毎年度策定される、一般廃棄物の処理量の見込みや取り組みを定める実施計画について、来年度の計画案を市がまとめられましたので、その内容を確認します。</p> <p>それでは、事務局から説明をお願いいたします。</p>
事務局	<p>それでは、事務局よりご説明させていただきます。</p> <p>(資料2に基づき説明)</p>
橋本会長	<p>ただいま事務局からありました説明について、何かご意見・ご質問があればお聞きしたいと思います。いかがでしょうか。</p>

橋本会長	リチウムイオン電池の移動式拠点回収について伺います。どの程度の頻度で実施される予定なのでしょうか。
事務局	実施頻度につきましては、市内の公共施設など7か所において、各施設ごとに年間5回から6回程度を予定しております。
早川副会長	<p>私は日頃から通学路の一部でごみ拾いをしておりますが、ポイ捨てごみで最も多いのが吸い殻、次いでコンビニエンスストアの食品容器等のごみです。</p> <p>吸い殻に関しては、例えば岡東中央公園の喫煙所の設置など、事業者が販売だけでなく社会貢献の一環として啓発活動等にも取り組まれている事例があります。</p> <p>一方で、コンビニエンスストア各社はどのような取り組みをされているのでしょうか。もし把握されている情報があれば、お聞かせいただきたいと思えます。コンビニ業界においても、例えば地域貢献策を検討していただくなど、何らかの働きかけができないでしょうか。私自身は、事業者も積極的に取り組むべきだと考えております。市として把握されている情報や今後の方向性について、ぜひ教えていただきたい。</p>
事務局	<p>現在、コンビニエンスストア各社がどのような対策を講じているか、詳細な情報までは把握できていないのが実情です。以前は店頭で設置されていたごみ箱が、家庭ごみの持ち込み防止等の観点から、最近では店内に移設される傾向にあります。そうした状況もあり、屋外で出たごみを捨てにくくなっている側面はあるのかもしれませんが。</p> <p>今すぐ何ができるかという課題はございますが、今回、食品ロス「協力店登録制度」など、事業者の方々と様々な形で接点を持つ機会が増えてまいります。そうした場を通じて、ポイ捨てごみ対策や地域貢献に関するお話もできればと考えております。</p>
田委員	<p>おっしゃるように、現在は防犯や家庭ごみ持ち込み防止の観点から、ごみ箱を店内に設置する店舗が増えています。事業者側からすれば、回収や処理には当然コストがかかるため、ごみを減らしたいという事情もあるのでしょうか。</p> <p>しかし、日本の街中、特に観光地や公道にごみ箱がほとんどない現状はどうなのでしょうか。ごみが出るのは人間活動の証拠であり、全てを自宅まで持ち帰ることは現実的ではありません。その結果、路上や各施設にポイ捨てされる状況も見受けられます。</p> <p>海外に目を向ければ、交差点や公園など至る所にごみ箱が設置されています。一方、日本では駅のごみ箱すら撤去され、その結果、街が綺麗になったのではなく、単にごみの行き場が失われているだけではないのでしょうか。</p> <p>ごみ箱を設置すれば、当然その回収・処理費用は発生しますが設置によって</p>

	<p>ごみが際限なく増えるとは考えにくいですし、街の美観を保つためにも、公園や道路などにごみ箱を設置することを検討してはどうかと考えますが、いかがでしょうか。</p>
<p>事務局</p>	<p>現時点で、公園等にごみ箱を改めて設置していくという方針を決定することは、管理運営上の観点からもなかなか難しい面がございます。</p> <p>しかし、ご指摘の通り、屋外にごみ箱がないことがポイ捨ての一因になっているという側面も確かにございます。いただいたご意見は、今後の検討課題とさせていただきますと考えております。</p>
<p>田村委員</p>	<p>先ほどの質問とも重複いたしますが、本計画は実施計画として毎年度更新されていくものと理解しております。</p> <p>今年度の更新箇所については先ほどご説明いただいた通りですが、来年度の更新時には、先ほど議論に上がった広報に関する具体的な施策が、いくつか盛り込まれることを期待しております。</p>
<p>橋本会長</p>	<p>今回提示いただいた計画では、情報発信の強化として5ページの項目①などを盛り込まれていると思いますが、いかがでしょうか。</p>
<p>事務局</p>	<p>情報発信をはじめ、各項目の取り組み内容につきましては、今後、実績報告の中で具体的な内容をお示ししてまいります。</p> <p>その際にいただいたご意見を踏まえ、適宜改善を図りながら、着実に取り組みを進めていきたいと考えております。</p>
<p>廣永委員</p>	<p>ごみの分別について伺います。前回の組成分析の結果を拝見しましても、令和3年と令和7年を比較して、プラスチックや紙類などの混入状況に大きな変化が見られません。</p> <p>これまで4Rの推進など、様々な施策を展開してきたことで一定の成果は上がっていますが、現状では下げ止まりの状態にあるのではないのでしょうか。分別の習慣がない層に対して、これまでの啓発だけでは限界があるようにも感じられます。</p> <p>今後は、地域の中で相互に見守りを行うなど、地域主体の働きかけが必要ではないかと考えますが、市としてのお考えをお聞かせください。</p>
<p>事務局</p>	<p>確かに、地域で強制的に分別を促すというのも一つの手法ではありますが、現実的には難しい側面もございます。</p> <p>今回の組成分析結果を見ますと、新聞・雑誌・段ボールといった、分別の判断が容易なものについては、既に高いレベルで分別が徹底されています。課題となっているのは、リサイクル可能であるにもかかわらず、判断が難しいため</p>

<p>廣永委員</p>	<p>に一般ごみとして出されている「雑がみ」などの扱いです。</p> <p>こうした課題に対し、現在は各学校を対象とした「環境学習」の出前講座に注力しております。子供たちに「雑がみもリサイクルできる」という知識を直接伝え、それを家庭に持ち帰ってもらうことで、保護者の意識改革や行動変容に繋げていきたいと考えております。</p> <p>劇的な改善は一筋縄ではいかない部分もございますが、まずはこうした教育現場からのアプローチを粘り強く継続し、分別の底上げを図ってまいりたいと考えております。</p> <p>雑がみやペットボトルなどは比較的判別しやすいですが、食品パックなどはリサイクルできるものかどうかの判断が難しいところだと思います。そうした「分別の迷い」が生じやすいものが、結果として一般ごみに混ざってしまっているのが実情ではないでしょうか。</p>
<p>事務局</p>	<p>今後、新たに分別収集を行うことが求められているプラスチック使用製品廃棄物なども含めて、市民の皆様にとって「極力分かりやすく、簡単な分別方法」を構築できるよう、取り組みを進めながら本審議会にて適宜ご報告させていただきます。</p>
<p>田村委員</p>	<p>出前授業のお話に関連して、以前の経験を思い出しましたのでお伝えします。</p> <p>近隣で雑がみの収集が始まる際、私の子供が小学校から専用の紙袋を持ち帰ってきたことがありました。その袋には「雑がみの収集が始まります」という周知と共に、具体的にどのようなものを入れて出すべきかというメッセージが分かりやすく記されていました。</p> <p>子供が口頭で詳細を正確に伝えるのは難しくても、そのように実物としての袋を手渡してくれることで、家庭側には内容が非常によく伝わりました。今お聞きした出前授業においても、そのような視覚的・実用的なツールを活用することは非常に有効ではないかと感じた次第です。</p>
<p>事務局</p>	<p>実は我々も、まさに委員がおっしゃったような「雑がみを入れていただく袋」を配布する取り組みを、ちょうど来年度の計画として準備しているところでございます。</p> <p>環境学習の場で子供たちに手渡し、ご家庭に持ち帰っていただくことで、親御さんと一緒に分別の話をしながら、地域の廃品回収や行政の資源回収へとつなげていただく。そうした流れをまさに具体化しようとしていたところですので、いただいたご意見を励みに、しっかりと取り組んでまいります。</p>

橋本会長	<p>学校を通じて配布することで、家庭内でのコミュニケーションが生まれるという点は非常に良いと思います。</p> <p>一方で、お子さんがいらっしゃる世帯もあります。自治体によっては全戸配布を実施している事例もあります。</p> <p>まずは小学校での配布から着手し、その効果を検証しながら、将来的には他の世帯へも対象を広げていく手法を検討されてはいかがでしょうか。</p>
白石委員	<p>学校での学びが家庭内の話題になるというのは、非常に重要な視点です。私共のボランティア活動でも、食育の出前授業で「バランス良く食べることの大切さ」などを伝えておりますが、子供から話を聞いた親御さんが献立を工夫したり、苦手なものに挑戦したりといった変化が実際に起きていると聞いています。</p> <p>子供を通じて親の意識にも働きかけるという、こうした地道な積み重ねこそが、時間はかかっても非常に大切であると改めて感じました。今後もぜひ、こうした取り組みを継続していただきたいと思います。</p> <p>また、食品ロス対策に関連してですが、私共も健康づくり課などと連携し、バランスの良い食事に関する料理教室等の取り組みを行っております。市が発行している「枚方キッチン」のような献立冊子の中に、例えば「余りがちな野菜を活用したスープのレシピ」などを掲載し、私たちも一緒に普及に取り組めればと考えております。</p>
橋本会長	<p>出前講座の際には、実際に子供たちが分別を体験するような実践的なメニューも取り入れているのでしょうか。</p>
事務局	<p>小学校での環境学習においては、分別の重要性についてお伝えするのはもちろんのこと、実際にパッカー車を校内に持ち込み、目の前で実演を行っております。「このような形で分別しながら、ごみを収集している」ということを、より具体的に実感してもらえようような講座を実施しております。</p>
橋本会長	<p>可燃ごみに混入している資源ごみの削減に向けて、子供たちに実体験をさせ、家庭に戻ってから親へ指摘してもらうという流れは非常に有効な手法です。</p> <p>ぜひ今後も体験型のメニューを積極的に取り入れていただければと思います。</p>
廣永委員	<p>パブリックコメントでも意見が出ておりましたが、ごみの有料化について伺います。今回の実施計画には記載がありませんが、最近ではメディアでも頻繁に取り上げられており、全国的にも既に6割強の自治体で導入されていると聞いています。</p>

<p>事務局</p> <p>事務局</p> <p>廣永委員</p> <p>事務局</p> <p>橋本会長</p>	<p>本市において導入を検討するとなれば、非常にハードルが高い課題であると認識しておりますが、現時点で市としてどのようなロードマップを描かれているのでしょうか。いつ頃の導入を目指すといった具体的な目標などはあるのでしょうか。</p> <p>家庭ごみの有料化につきましては、環境省からもごみ減量施策における有効な手法の一つとして示されているところです。</p> <p>本市の新たな計画においては、2050年に向け、ごみの焼却量について非常に高い削減目標を掲げております。まずは現在策定している実施計画に基づき、環境学習等を通じた市民の意識改革や分別の徹底、あるいはごみの出しやすさの向上といった施策を優先し、減量を進めてまいりたいと考えております。</p> <p>そうした取り組みを尽くした上でも、なお目標達成が困難な場合に、一つの選択肢として検討すべきものと認識しております。現在は他市の導入状況や事例を調査・研究している段階であり、現時点で導入の可否や時期について決定はしておりません。</p> <p>一方で、ごみ処理費用は年々増大しています。そうしたコスト面も含めて、今後どう対応していくおつもりでしょうか。</p> <p>そちらについても、検討していかなければならないと考えております。</p> <p>他にないようですので、本計画案の内容で策定の手続きを進めていただくようお願いいたします。</p> <p>それでは、この案件については、以上とします。</p>
<p>案件3 その他</p>	
<p>橋本会長</p> <p>事務局</p>	<p>案件3「その他」について、事務局から何かありますか。</p> <p>まず、枚方市と京田辺市の新たなごみ焼却施設である可燃ごみ広域処理施設の整備状況についてご報告いたします。</p> <p>令和5年度より建設工事を開始し、現在は工場の建物が完成し、植栽などの外構工事を進めている状況です。令和7年11月17日からは京田辺市の可燃ごみ全量を新工場に搬入し、12月1日からは枚方市の可燃ごみについても新工場に搬入を行い、12月3日から燃焼試験を開始しています。令和8年3月31日の本格稼働に向けて、現在も試運転を行っております。</p> <p>次に、今年度は、第2次一般廃棄物処理基本計画などの大きな案件もあったことから、例年よりも多く審議会を開催し、皆さまにご審議いただきまして、誠にありがとうございました。令和8年度の審議会ですが、委員の皆さまの任期は2年となっていますので、来年度も引き続き現体制でお願いしたいと思っております。なお、それぞれの団体のご都合により、委員を交代される場合な</p>

橋本会長	<p>どがございましたら、事務局までお知らせいただきますようよろしくお願いいたします。</p> <p>事務局からは以上です。</p> <p>委員の皆さまや事務局から特になければ、本日の審議会を終了させていただきたいと思います。</p> <p>ありがとうございました。</p>
------	---